

特集：スーパー閉店 ➡ 助けあい・ふれあい！

すいたの年輪ネット(高齢者生活支援体制整備協議会)では「高齢者の社会参加」「高齢者の生活支援」を軸に議論・検討を進めています。

今号は「地域のスーパー閉店」から生まれた「地域と特別養護老人ホームが連携した買い物支援バス」のコーディネートを取り上げます。この買い物支援バス、生活支援だけでなく「社会参加の場」にもなっています。

●地域のスーパーが閉店！

令和6年の初夏。すいたの年輪ネットで長年委員を務められていた藤原さん(山三地区連合自治会長)から、生活支援コーディネーターに相談が寄せられた。「地域のスーパーが閉店し高齢者が困る、と地域で話題になっている。どうしたら良いか？」との相談だった。本号でも紹介していた「移動スーパーとくし丸」は運行ルート・日程等が合わず断念。どうする！？

●どうする！？ダメ元で聞いてみよう！少人数でもエエやん！が原動力

生活支援コーディネーターが山三地区に所在し地域貢献活動を取組んでいる「いのこの里」(吹田市社会福祉協議会施設連絡会加盟施設)に相談すると「新しい店舗ができるまで近隣スーパーへの送迎協力可能」との返答があった。

そこで連合自治会、民生・児童委員等が連携してアンケートを作成・配布すると数人が希望する、と回答。

改めて連合自治会、福祉委員会、いのこの里、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターで打合せを行い、①買い物に行くスーパー、②運行時間、③集合場所、④その他ルール、を決めていった。



乗車希望者はリスト化し、乗車人数を確認。



運転は施設職員が行う。福祉施設所有車両のため、車内には手すり・ステップがあり安心して乗降できる。



買い物に必須な手押し車等も収納して出発！



車内はとにかく賑やか！みなさん買い物支援バスで初めて出会った、とのこと。今は顔なじみ！と話されていた。

●スーパーでの買い物時間は1時間

買い物支援バスに乗車していた高齢者に話を聞いた。

「スーパー閉店で困っていた。暑い日が続く中、買い物支援バスはとても助かる！」「買い物支援バスだと、重たいものも持って帰れる」。話を聞いていた5分ほどでスーパーに到着。「1時間後に戻ってきますね！」と送迎バスは施設に一旦戻っていった。



いざ店内へ！



「自分で選ぶのが楽しみ」と、ゆっくり買い物を楽しんでいた。



買い物後は送迎バスが到着するまで「おしゃべりタイム」。



「このポーチ、いいね」ちょっとした、ふれあいの時間だ。



帰りの手押し車は重たい。1週間分の買い物でパンパン！



また来週！買い物支援バスは「集いの場」なのかもしれない。

買い物支援バスを運行する「いのこの里・山本施設長」にインタビュー！



地域のスーパーの閉店は高齢者の生活に影響が大きいですね。買い物支援バスは5名の職員が交代で毎週1回運行し、4～6名の高齢者が利用されています。万が一の場合、緊急時の連絡も取れるようにしています。利用する高齢者が増えたら？送迎車を2便にするなど柔軟に対応しようと思います。このような支援は自治会や福祉委員会等の皆さんと日頃の顔の見える関係性があるからこそ実施できていると感じています。地元の地域団体との連携・協働は欠かせません。これからも地域の困りごとや福祉活動のお手伝いを応援する施設でありたいと思います。

生活支援Co
の独り言

同地区では普段から、いのこの里・地域団体が地域行事等で「顔と名前がわかる関係」が構築されている。生活支援「体制整備」は声をかけたら集まり・協議できる「顔なじみ・つながり」を作ることと改めて感じた。

生活支援コーディネーター ～ 耳より情報局 ～

編集・発行：社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会 電話 (06) 6339-1254 FAX (06) 6170-5800

(吹田市高齢者生活支援体制整備事業 事務局：吹田市福祉部高齢福祉室支援グループ 電話：06-6384-1375)